

福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織 人づくりグループ 第12回会議		
日時	令和2年4月2日(木) 19時30分～21時	場所	福野庁舎3階302会議室
出席者	人づくりグループ メンバー:3名、地方創生推進課:2名		
内容	・3月24日開催の福野縞の機織り体験から意見交換、 ・今回の会議の進め方		
概要	<p>◆浦井リーダー挨拶</p> <p>○今回の会議は、①イベントとして福野縞体験を行うことについて、その内容のアイデア出し、②年間スケジュールの具体的検討、を行いたいと思っていたが、②年間スケジュールについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による行動自粛が収束しないことには、考えても仕方がないと思っていて、正直なところ、夏のイベントの実施は難しいと感じている。準備のための会議の開催もままならない。学校も縮小実施という状況であり、元々、小学生の夏休みの宿題を意識した企画のはずが、そのニーズはあっても日程が合うかどうか不明なので、夏休みの子ども向けイベントの開催は、今年は無理だと思っている。</p> <p>そこで、視点を変えて、例えば、子ども向けではなく、若い人向けにちょっと遊びに行くような雰囲気企画出来ないかと。若い人向けにすれば、子ども向けのように夏休み限定というような実施時期を制限されることなく、例えば、秋頃に、大人の若い人向けのイベントが出来るのではないだろうか。</p> <p>そこで、今回は、夏のイベントに限らない福野縞の機織り体験のアイデア出しということで、前回会議で福野縞の機織り体験を行ったが、そのことについて意見交換したい。</p> <p>◆3月24日開催の福野縞の機織り体験から意見交換 (○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言)</p> <p>○前回の福野縞の機織り体験と一緒に参加していた我が子が気に入ってしまい、前回会議後の金曜日とその次の火曜日にも福野縞の会の活動にお邪魔してきた。その火曜日の活動の折に、会の活動場所が密閉空間になることから、しばらく活動を休止されることを伺ったが、そんなことから、福野縞の会のクラブ活動のようなことが出来ないかと考えた。子どもたちが定期的集まって、みんなで機織りを交代で行いながら、1反を織り上げるようなイメージで活動すれば、子どもたちも楽しいだろうと思った。福野縞の会のメンバーには、機織り工程における失敗の原因が分かって、その解決まで出来る人は、1人しかおられないとのことで、そこまで出来る人が他にも必要ではないかと思った。長い目で見れば、そのクラブに来る子どもたちも後継者になり得るのではないだろうか。また、先日の火曜日にお邪魔した時には、経糸(たていと)を並べる整経(せいけい)という手間のかかる作業を見ることが出来た。「福野縞」と言うからには、経糸が福野縞の模様にならなければならぬので、そういう意味でも、確実に後継者を育成しないと福野縞がなくなる可能性もあることを実感した。会に通うと、福野縞のことが徐々に分かってくる。温かく受け入れてくださるこの会の皆さんと協力しながら長く付き合っていきたいと思っている。</p> <p>同じ機織りでも、観光的な観点で体験するのと、技能を継承するのでは意味が全く違うので、福野縞の継承を進めた上で、体験活動が出来ると良いのだろうと思っていたところ。体験は誰でも気軽に参加出来るから、若い人でも参加しやすいと思うが、福野縞の会は年配の方が多いので、どうしても敷居が高いと感じてしまっていて入りづらい面はあるかもしれない。そこは、子どもも若い人もやっているよ～、と気軽な雰囲気になれば、会の間口はぐっと広がる気がする。そんなイメージで仕掛けられたら良いと思う。新しい人が入って来やすくなるような仕組みがないと、会そのものが継続出来ない。地元の祭も同様である。何とかして若い人の入口を作れば、生き残れるのではないだろうか。そう考えると、伝承には、新しい人を受け入れる努力が必要なのだろうと思う。</p> <p>→例えば、子どもが入るとなると、「教える」という行為そのものが会の皆さんの負担になるのではないか。</p> <p>●週2回ほどの活動が想定されるだろうか。小学生なら、楽しんで教えてもらえそうな気がする。</p> <p>○ただ、子どもたちが自分たちだけで出来るわけでもなく、だからと言って、面倒を見てくださる方はおられつつも、その方の許容範囲は限られる。その辺は、このグループが福野縞の会にどこまで入り込めるのか、というところであろうか。</p> <p>→福野縞の会としては、会長さんの様子では、新しい人に積極的に入ってほしいような感じに見える。</p>		

人が増えれば、織機も増やさなければならない、と思われるかもしれないが、活動場所については、先日みんなで邪魔した所だけではないのではないだろうか。

○他にもあるとするなら、会のメンバーが増えることへの心配は無用ということになるか。もしそうなら、子ども向けのクラブ活動や若い人が入ってきやすくなるような仕組みづくりの提案をしてみる可能性は高まる。

→今後、そのような声が増えるなら、再度、補助金の申請などでの活動資金の工面も考えられるのではないだろうか。

○気軽にやっていくことも含めて、教えてくださる人が増えていくと良いかと。でも、先日から福野縞の会にお邪魔して感じたのは、緯糸（よこいと）経糸を組むのが本当に大変そうだったこと。

→切れた経糸の結び方が難しい、ということで、皆さん頭を抱えておられた。

○改めて、伝承は難しい、ということを実感した。昔は、仕事だったから毎日やっていく中で身に付いていったのだろうけど。

●福野縞の商品化はどうか？

○当然、福野縞の会でも商品化されておられるし、アミュー内の山田書店でも福野縞の商品を扱っておられる。山田書店にある商品は、空き家等活用グループメンバーの山田智恵子さんがプロデュースされたもので、福野縞と作家さんとを繋いで商品化された。福野縞が、例えば20代前半の若い人に「いいね！」と言ってもらえるような商品開発が出来る、更に良いのではないかと思っている。

→こちらも自分たちの出来る範囲で違うタイプの商品を考えていけば良いのではないかと？商品化のグループが複数あれば、お互いに切磋琢磨出来るし、コラボレーションの可能性もあるかもしれない。

●福野縞の反物としての需要はあるのか？反物で買いたい、ということはあるのか？

→前回お邪魔した時には、反物で売ったところで本来ほしい値段ももらえず、仮に、売れても材料代の一部にしかならないというようなお話もされていたかと。それなら、例えば、卒業証書を入れる筒に福野縞の布地を貼り付けるなど、福野地域の小中学校はこの方針なのだ、というように、ある意味強制的に、そのためだけに織ってもらう、というようにすれば、一般販売目的よりも、毎年必ず一定の需要は見込めるから、その分の収入も見込めるし、材料費の一部で終わることなく、活動費にまでお金を回せるのではないかと？同様の伝統工芸の五箇山和紙は、市内小中学校の卒業証書の用紙となっている。教育委員会と連携すれば、実現も可能かもしれない。ある程度の量が見込めるような分野と連携するとよいのかもしれない。

●専業にならない程度に、且つ、頑張ってお織ろう！というくらいの分量が良いのかも。

●五箇山の子どもたちは、卒業証書用紙を自分たちで漉いているのか？

→そうだったかもしれない。

○学校の授業の中に組み込むとするならば、今ある授業を1つ削らなければならない。「その調整が大変」と学校側がよく言われる。「こんなことも出来ますよ」というようなメニューの出し方であれば、するかしないかは先生方の判断によるので、受け入れてもらえるかどうか分からないが、提案はしやすい。

●そう考えると、クラブ活動のような取り組み方が実現しやすいのだろうか。福野縞を織ることが出来る子とそうでない子が出てくるということになるが。

○例えば、学校のクラブ活動に、「福野縞クラブ（仮称）」を作ってもらおうとか。指導者もおられるし、機材もあるし、出来ないことはないような気がする。

●現在、小学校には「伝承クラブ」のようなものはあるのか？

○今は「歴史を感じるクラブ」となっているようだ。外部講師を招いて、茶道や華道を始め、様々なことに取り組めるらしい。このようなイメージで「福野縞クラブ（仮称）」があれば、入りやすいのかもしれない。現在のクラブ活動は月に2、3回実施されているようだが、1年通したらそれなりの活動になるのではないかと。

●もしそれが実現したとしても、量は期待出来ないということになるだろうか。

○自分で織って、それが加工品にまでなれば、子どもたちも楽しいのだけれど、そこまでも期待出来ないだろう。

→昔、城端には「ふるさと研究会」というのがあって、地域の人が講師として小学校へやって来て、三味線などを子どもたちに教える、という活動をしていた。

○そんな活動は良いと思う。「福野縞クラブ（仮称）」も同じように出来ると良いが。

→小学校と福野縞の会の代表に相談してみて、両方から了解が得られれば、福野縞の会の代表から小学校に、福野縞伝承の活動を提案してもらってはどうか。このグループは小学校と福野縞の会をつなぐ役割を担えば良いと思う。

○それぞれ一度相談に行ってみようか。このような感じでコーディネートが出来れば良い

のかもしれない。「人を育てる」という部分や「伝承」という部分に取組めるし、それにイベントが出来れば、このグループの活動としていくことは可能なのではないだろうか。

→やろうとしていることの方向性は合っていると思う。

○地域の人と子どもたちをつなぐようなことも出来るだろう。大人向けの活動も考えていきたい。でも、教えることが負担になるようであれば、そこをどのようにクリアしていくか。参加のしやすさと教える人たちが嫌にならない、そのちょうど良い部分が見つければ、大人向けの活動も実現するだろう。

●「福野縞クラブ（仮称）」を、福野縞の会の現在の活動場所で行うとすれば、子どもたちが活動場所まで歩いて行く中で、福野のまちなかを知ること出来るだろう。

→福野家守舎が、福野縞の会の活動場所近くの空き家を使って、放課後児童クラブのような事に取り組みたい、という話を聞いたことがある。

○私もその話は聞いたことがある。もしかすると、「福野縞クラブ（仮称）」を同じ場所で、一緒に実施出来ると良いかもしれない。但し、福野縞の会の皆様のご協力がないと成り立たない事だし、どこまでご協力をお願い出来るだろうか、という問題はある。子どもたちを預かる時間帯のイメージとしては16時から18時頃までだろうが、子どもたちの預かりも兼ねたクラブ活動になれば、参加しやすいかもしれない。ただ、受け入れ側がどこまで可能なのか、活動場所の開け閉め、子どもの見守りなどがあるだろうから、そういうことが負担に感じるようになるかもしれない。その辺も含めて、案として、福野縞の会の代表の方に相談してみたいと思う。どのような返事になるかは分からないが、まずは、代表の方に相談して、その中でつなぐ事が出来そうなものがあれば考えてみる、ということが、このグループの今後の活動の案の1つになるだろうか。

大人向けの取組や、若者向けの商品開発に対するご意見はないだろうか？

●若い人に福野縞を知ってもらう機会があると良いと思う。

○知ってもらうにはどうしたら良いだろうか？

●商品そのものが、お年寄りの手作業のようなイメージではなくて、デザインも含めて、若者が実用的に使えるような商品が良いのではないかなと思う。

○五箇山和紙の「FIVE」には、若者が好きそうなデザインの実用品があって、若者にも人気である。これ素敵だったから買って見たが、よく見たら福野縞だった、というようなイメージで商品化出来れば良いのかもしれない。

●毎日使えるような手作り品だと、愛着が湧いて、長く使うのではないかな。

○そういう商品もあると良いだろう。どうやって若者のニーズを確認すればよいだろうか？

●五箇山和紙の「FIVE」の手帳カバーを持っているが、そのデザインや色使いで興味を持ち、手に取って見たら、実は和紙だった！という経緯で買ったが、そのようなことか？

●五箇山和紙、という特別感が良いのかもしれないが、福野縞でも、五箇山和紙のような特別感がどこまで出せるのか、というところだろうか？

○今後の活動に向けたアイデアがいろいろと出たと思う。それにしても、福野縞の会に行ってみて良かった。体験してみて楽しかったし、皆さんも福野縞や機織りについてイメージ出来たように思う。

●福野縞の会の雰囲気を感じる事が出来た。

○足を運ぶということが大事なのでないだろうか。

◆ウェブ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を活用した、今後の会議の進め方について

（○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言）

○今後の会議の進め方として、ウェブ会議アプリ「Zoom」を活用して、このグループでの会議の可能性を先ほど確認してみたが、やれないことはなさそうなので、次回会議はテストを兼ねて、「Zoom」を使ってみることとしたい。

●（全員）異議なし。

→各自の通信料は必要になるので、その辺の配慮が必要だろう。

◆次回会議

日時…令和2年4月27日（月）午後7時30分から ←中止になりました

場所…福野庁舎3階 302会議室

内容…今後の取組内容の検討について

福野地域提言実現検討組織

第12回会議 R2.4.2(木)

人づくりグループ

◆今後の会議のすめ方◆

- ・ZOOMの活用 → 次回 テスト しよう!

◆今日の会議◆

① イベントの内容のアイデア出し

② 年間スケジュールの落とし込み

↳ 新型コロナが終息するまでは、準備もできないので、イベントの企画の検討は延期としている

◆次回会議◆

4/27(月) 19:30 ~
Zoomによる
オンライン会議
かな?

◆福野稿の機織り体験から◆

- ・伝承の難しさ
- ・持続可能な活動にすることが必要かと。(Ex) 後継者育成
- クラブ活動的 (Ex. 福野稿クラブ) に子どもたちに参加してもらうこともアリか?
(定期的)
- ・量は期待できないか...
- 子ども向け活動に向けて、代表の方と相談してみてもどうか?
- ・参加しやすさ、
- ・若い人に知ってもらう機会
- ・若者の商品開発?
- ・展示